

平成8年度

児童生徒が積極的に関わる鑑賞活動のあり方を探る

児童生徒が積極的に関わる 鑑賞活動のあり方を探る

図工・美術教育研究会議

応後 茂樹¹ 川合 克彦²
夏井 美幸³ 大内三喜男¹

はじめに

今日、生涯学習の重要性がさかんに聞かれるようになってきた。学校教育でも生涯にわたる学習の基礎を培うことが求められている。

図画工作科・美術科においては表現活動とともに鑑賞活動も一層重視されている。自分や友だちの作品を互いに鑑賞し合うことは、作品を通した人間理解である。そして、彫刻・絵画・デザインといった造形作品を鑑賞することは自分なりの鑑賞眼を養うことであり、さらに公園や都市環境の中で造形物を鑑賞することは、地域社会に関心を持ち、大切にしていこうとする地域愛にも通じるものである。

つまり、鑑賞活動は単に作品のよさや美しさを味わうだけでなく、心豊かな人間を形成していく総合的な活動であると言える。

I 主題設定の理由

本センターでは、平成4・5年度美術教材開発研究会議および平成6・7年度図工美術教育研究会議の4年間の研究により、川崎市における鑑賞資料を開発してきた。これは、それまで図画工作科・美術科の学習で利用できる鑑賞資料がほとんどないことと、身近な造形作品をきっかけにして児童生徒がすすんで作品を鑑賞する意欲を期待してのことであった。その結果、15の映像資料が開発され、内11の資料はレーザーディスクに記録して、市内各学校に配付するとともに、内容を紹介した冊子も配付してきた。また、これらの資料を検索し、効果的に活用できるようにするためにコンピュータを使った提供の方法を探ってきた。

さて、従来の図画工作科・美術科での鑑賞活動は作品を分析的に見たり、表現活動のためのヒントとして扱われることが多かったのではないかと考える。このような鑑賞活動は個々が主体的に鑑賞しようとする態度を育てるには十分とは言えないのではないかと、自分なりの価値観をもって積極的に作品を見る活動こそが求められてい

るのではないかと考える。それには、作品を見て感想を話し合ったりするだけでなく、作品を自らの感性でとらえ感じたことを主体的に自己表現する活動を通して深めていくことが大切である。

そこで、本研究会議ではより積極的な鑑賞活動はどうかあればよいのかを探っていくこととし、次のような仮説を設定した。

提供された鑑賞資料をもとに、自分でも鑑賞資料を作っていくことにより、主体的に鑑賞しようとする態度が育つのではないだろうか。

II 研究の方法

1. 個々の感性を育てる積極的な鑑賞活動の形態を考える。
2. 小学校、中学校で授業を行い仮説の検証をする。
3. 平成6・7年度開発のマルチメディアデータベースソフトをより活用しやすいソフトに改良する。

III 研究の内容

1. 積極的鑑賞活動について

従来、鑑賞活動は教師から与えられた鑑賞資料をもとに、感想を持ったりどこがおもしろいか話し合ったりする活動形態をとることが多かった。また、資料も教科書や作品集をクラス全員で見ることがほとんどであった。

平成7年度の検証授業学級で行ったアンケートでは、「どんな作品が印象に残っているか」という問いに対して、「ピカソやムンク」といった有名な画家の作品が多かった。これらの作品を資料として取り上げることに異を唱えることはできないが、このことはこれまでの鑑賞経験が少なく、限られたものにしかならぬ鑑賞の関心が持てないことを示している。また、資料を見せただけでは「おもしろい、きれいだ」という感想にとどまってしまうだろう。

それに対して、鑑賞後に何らかの活動を行って作品に対する思いを深める鑑賞活動を「積極的な鑑賞」と考えた。例えば、作品の模写をしたり、追制作をしたりして自分で体験しながら鑑賞資料に対して関心を持つことは今までにも行われている。しかし、それには鑑賞後に児童生徒の主体的な活動が期待できる資料と鑑賞対象を自分なりに価値づける活動内容が大切になる。

¹川崎市立大戸小学校教諭（研修員）

³川崎市総合教育センター生涯学習研究室主任

²川崎市立向丘中学校教諭（研修員）

⁴川崎市総合教育センター指導主事

このことから、本研究会議では積極的な鑑賞活動を授業を通して考えることとした。

2. 積極的な鑑賞活動の形態

(1) 形態A

平成6・7年度図工美術教育研究会議では、鑑賞活動の授業を次のように行ってきた。

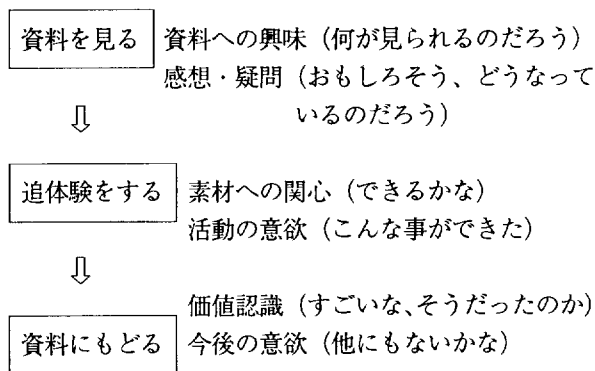
・提供資料「日本民家園の竹細工作り」

資料鑑賞後に実際の竹や藁などを使い、編んだり組んだりしながら素材の持つ感触を味わうことにより、資料で見た民具・玩具のよさや美しさを体験する。

・提供資料「水のある街」

資料鑑賞後に水を入れた容器を動かして水の波紋を作り、それを写真に記録する。また、資料の中から気に入った場面をプリントアウトしてみる活動を通して、自分でも水の動きや模様の変化を感じ取る。

このような活動の過程を以下のようにとらえてみる。

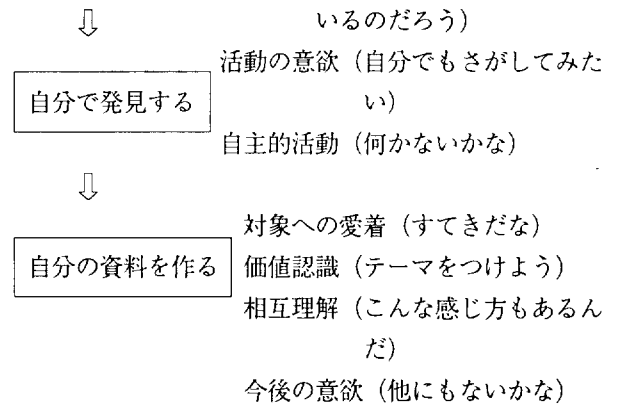
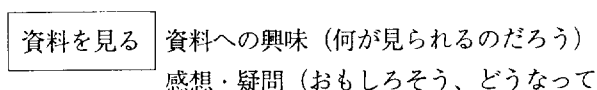


はじめは、資料を客観的にとらえていたものが、追体験することによって自分の手や目を通して感触を味わったり、そのもののよさを感じたりして資料のイメージを深めていく。このような活動を通して、児童生徒の鑑賞意欲が高まり、改めて資料に対する自分としての見方、感じ方を持つようになる。

(2) 形態B

上記の形態での追体験は、再び資料にもどって味わうための活動である。したがって、この鑑賞活動は資料そのものの鑑賞であると言える。

そこで、児童生徒が鑑賞対象を自ら発見するなど主体的な活動をすることにより、提供された資料から離れて対象をとらえ、自らの感性で自己表現することはできないかと考え、次のような流れを設定した。



この活動は資料をきっかけにして、自分なりに対象を発見し、自分の言葉でテーマや説明を加えるものである。そして、そこで提供された資料とは別の資料を自分で作るという活動形態になる。自分の力で鑑賞対象を発見することは、物をよく見つめる目を持つことになるだろう。また、それにテーマをつけることは自分なりに対象の価値を見出すことになり、より鑑賞眼を養っていくことになるであろう。

3. コンピュータを利用した鑑賞活動

従来の鑑賞活動では、資料の提供は鑑賞資料集や教科書などであった。そこで、平成6・7年度図工美術教育研究会議ではコンピュータを利用した資料の提供を開発し、多くの資料の中から自分の見たいものを選んだり、動画を繰り返し見たりするという個々の鑑賞が可能となった。しかし、鑑賞とは本来自ら直接対象に関わりながら感じたりする活動であろう。

そこで、本研究会議では積極的な鑑賞活動として、資料提供だけでなく、児童生徒自ら身近な環境に鑑賞の対象を発見し、自分でも鑑賞資料を作成できるようなコンピュータの活用方法を考えた。

4. 活動の実際

(1) 資料を見る活動

児童生徒が自分たちの地域に目を向けることのできる鑑賞資料として、平成6年度制作の「街のデザイン」を取り上げ、野外作品や建築物をビデオで鑑賞する。

(2) 自分で発見する活動

①街の中で新しい発見をする

自分たちの街の中にも「おもしろい場所や美しい形」を見つけようとなげかけ、児童生徒が主体的に探すようにする。

②写真に記録する

自分で見つけた場所を写真に撮る。カメラはレンズつきフィルムを渡しておき、一人2枚程度撮影する。

③メモを記入する

撮影した写真について、場所・感想・テーマなどをメモに記入する。

(3) 自分の資料を作る活動

写真をズーム、トリミングしながらコンピュータに取り込む。次にテーマを文字のデザインやレイアウトを考えて書き込む。最後にマイクを使って自分の声で感じたことなどを記録する。そして、友だちの作った資料を互いに見合いながら感じ方のよさや違いを理解する。

5. 小学校・中学校での活動の展開

(1) 日時

小学校 平成8年11月20日(水) 5, 6校時

中学校 平成8年12月 3日(火) 5, 6校時

(2) 授業学年

小学校 川崎市立大戸小学校4年(児童36名)

中学校 川崎市立向丘中学校2年(生徒36名)

(3) 題材名

小学校 「街は美術館」

中学校 「TOWN'S アートキャスター」

(4) 準備と機器環境

①準備 (教師) ・コンピュータ20台

・フロッピーディスク(保存用)

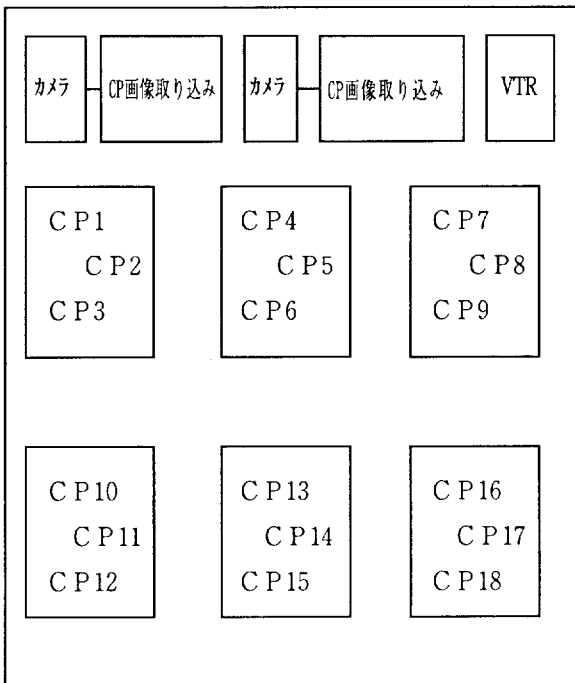
・ソフト「マルチ学習カード」

・参考資料

(児童) ・鑑賞メモ(キャスターレポート)

・写真

②機器環境



(5) 展開

児童の活動	教師の支援
<p>○「街のデザイン」をもう一度見る。</p> <p>○自分の見つけたものを紹介し合う。</p> <p>○本時の活動を確かめる。</p>	<p>○街の中にはおもしろい物があることを思い出すようにする。</p> <p>○友だちの見つけた物を知り、学習への関心を持つようにする。</p> <p>○コンピュータを使って鑑賞資料を作ることを確認する。</p> <p>○教師の作った鑑賞資料の例を参考として提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">丸い校庭</p> <p style="text-align: center;">(写真)</p> <p style="text-align: center;">し山のトンネルから見た様</p> </div> <p>○写真や文字のレイアウトを工夫するようにする。</p> <p>○コンピュータは二人・三人で1台を使い、互いに協力しながら一人ずつの資料を作る。</p> <p>○フロッピーディスクはグループで1枚使用する。</p> <p>○写真は拡大やトリミングをし、レイアウトを工夫するように教師が操作手順を補助する。</p> <p>○鑑賞メモをもとに、テーマを記入するが、文字のデザインや位置も工夫するようにする。</p> <p>○やり直しをしたり、テーマを変えて2枚目の資料を作ってもよいこととする。</p> <p>○次時は作った資料を互いに鑑賞し合うことを知らせる。</p>
<p>○鑑賞メモをもとに、自分の鑑賞資料を作る。</p> <p>・写真の位置や大きさを決める。</p> <p>・テーマや場所を文字で書き込む。</p> <p>・マイクで説明や感想を録音する。</p> <p>○作った資料をフロッピーディスクに記録保存する。</p>	<p>○写真や文字のレイアウトを工夫するようにする。</p> <p>○コンピュータは二人・三人で1台を使い、互いに協力しながら一人ずつの資料を作る。</p> <p>○フロッピーディスクはグループで1枚使用する。</p> <p>○写真は拡大やトリミングをし、レイアウトを工夫するように教師が操作手順を補助する。</p> <p>○鑑賞メモをもとに、テーマを記入するが、文字のデザインや位置も工夫するようにする。</p> <p>○やり直しをしたり、テーマを変えて2枚目の資料を作ってもよいこととする。</p> <p>○次時は作った資料を互いに鑑賞し合うことを知らせる。</p>

IV 研究のまとめと課題

本題材で鑑賞の対象としたのは、作品として表現されているものではない。日常の生活の中で見慣れている環境としての建築物であり、道路であり、木々である。そうしたものは普通にげなく見ていることが多いものであるが、そこにおもしろさや美しさを感じる目を持って見つめることにより、新しい発見ができると考えた。そして、単に発見するだけでなく自分なりの価値観を持って鑑賞を深めていく活動を行った。

児童生徒はまず、自分たちの地域の中で鑑賞の対象を探し、それを写真に撮影した。自分にとってどこがおもしろいかなどを考えながら写真に撮る構図や角度を決めることで、対象のよさや美しさを主体的に感じる事ができたようだ。

次に、その対象にテーマをつけることにより、そのものとは違った価値を対象から見だし、自分のものとしてとらえるようになった。例えば、マンションの壁の凸凹を見て、そこから「壁の点字」というテーマをつけたことから、その壁は児童にとって新しい価値を持ったと言える。児童生徒が個々にこのようなテーマを持つことにより、対象を自分なりに価値づける鑑賞が行われた。

こうして、写真とテーマによって自分なりに対象をとらえていくことができたが、さらにそれをコンピュータ上でレイアウトし、文字や声で一つの鑑賞資料として作り上げていった。コンピュータではレイアウトや文字の書き直しや音声の入れ直しが容易にでき、何度も繰り返していくうちにますます対象への思いが深められていく。これは、紙の上に写真を張ったり、文字を書いたりすることでは不可能なことである。また、友だちと一緒に写真を撮影しに行ったり、コンピュータで友だちの画面を見たりしながら互いの感じ方を知るという相互の鑑賞にも発展していった。

このような活動を通して、児童生徒は自ら関心を持って対象をみつめ、自分の心で主体的に自己表現していく鑑賞活動ができたものと考えられる。

本研究会議では、開発ソフト「まちなかの鑑賞教材」を利用してきたが、本題材では児童生徒が鑑賞資料を作成していくには操作が難しいと考え、「マルチ学習カード」を利用した。今後このような鑑賞活動が行われるためには、簡単に鑑賞資料が作成できるソフトの開発を行わなければならない。

そこで、平成4年度から収集した映像資料も検索・鑑賞ができ、なおかつ児童生徒が鑑賞資料の作成ができるソフトを開発していく予定である。それが各学校に配付されれば、より多様な鑑賞活動が期待できると考える。

しかし、本題材を経験したことによって、すぐに鑑賞

への関心が高まることはないだろうが、このような積極的な鑑賞活動を継続していけば地域環境だけでなく、造形作品や自然環境を自分の価値観を持って味わうことができるようになると思う。それは、美しいと感じることだけではなく、作者の気持ちを考えたり、作品に愛着を持ったりして人や物を尊重しようとする豊かな心を育てることになると考える。

おわりに

本研究会議では一年間という研究期間であり、月二回の研究会議という条件の中で、積極的な鑑賞活動のあり方を探ってきた。したがって、一つの題材をもとにした検証にとどまったが、これまでの鑑賞活動とは違った形態の試みとして報告できるのではないかと考える。

最後に本研究をすすめるにあたってご指導いただきました榎原先生をはじめ、各所属校の校長先生ならびに教職員の皆様、そしてコンピュータの機器借用に関して快くご協力いただきました富士通株式会社、ウチダシステム株式会社、ウチダエスコ株式会社の皆様に心より感謝申し上げます。

・参考文献

- | | | |
|--------------------|----------------|-------|
| 野島 光洋【美術鑑賞の授業】 | 明治図書 | 1989年 |
| 遠藤 友麗【中学校美術科・鑑賞】 | 明治図書 | 1991年 |
| 後藤 忠彦、若山皖一郎 | 【マルチメディアと学習活動】 | |
| | 東京電気大学出版局 | 1994年 |
| 白井 慎吾、藤井経三郎【都市と色彩】 | 洋泉社 | 1994年 |

・指導助言者

- | | |
|------------------|------|
| 共立女子大学教授 | 榎原 肇 |
| (川崎市総合教育センター専門員) | |

・研究協力者

- | | |
|-------------|-------|
| 川崎市立大戸小学校校長 | 菅井 信明 |
| 川崎市立向丘中学校校長 | 永二 良臣 |